

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

牧野高校の教育方針

本校の教育指針である「自尊」、「自浄」、「自助」の精神を身に付け、多様化・国際化する社会で個性を活かし、自らの使命を果たせる人材を育成する。

めざす学校

生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、

- 1. かけがえのない存在として自らの能力を信じ、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗に学び、達成して成長の喜びを実感する学校
- 2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養を磨く学校
- 3. 何事も、自ら考え、自ら判断して行動し、結果に対しては自ら責任を取るとともに、失敗にくじけず、何度でも自らの力で立ち上がる精神を育む学校

2 中期的目標

- 1. ウィズコロナにおける「確かな学力」の育成と授業改善（「 」内は学校教育自己診断におけるアンケート設問事項。以下全て同様。）
 - (1) ウィズコロナにおける、新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等を見据えて、「確かな学力」の育成とそのための授業改善を進める。
 - ア 校内の『授業力改善委員会』等による持続的な授業改善を推進する。
 - ※「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定回答を令和7年度までに85%以上にする（R2 78%、R3 84%、R4 82%）。
 - ※ 生徒の授業アンケート結果で3.35以上を維持する（R2 1回目①3.32、2回目②3.33、 R3 ①3.37、②3.38 R4 ①3.45、②3.47）
 - イ 『主体的・対話的で深い学び』の実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。
 - ※令和7年度まで90%以上の教員が定常的にICTを活用した授業を実施することを維持する（R2 93%、R3 92%、R4 91%）
 - ※令和7年度までに90%以上の生徒がICTを活用した授業が多いことを実感できるようにする（R2 91%、R3 91%、R4 88%）
 - ※令和7年度までに65%以上の生徒が1人1台端末を効果的に活用している授業が多いことを実感できるようにする（R4 63%）
 - ウ 入学時の学力を卒業まで維持・発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。
 - ※「授業の予習、復習は『できている』『まずできている』を令和7年度に60%以上にする（R2 53%、R3 56%、R4 52%）
 - ※「授業の予習、復習は『できていない』を令和7年度に5%以下にする（R2 8%、R3 9%、R4 9%）
 - エ 新学習指導要領における新カリキュラムと観点別学習評価を、令和4年度での取組みを踏まえ、令和5年度新入生には、より安定して実施できるようにする。
 - 2. ウィズコロナにおけるICTを活用した授業やオンライン授業、オンデマンド授業の充実、GIGAスクール構想への対応
 - (1) ICT機能を活用して、学校休業時や、新型コロナウイルス感染者と濃厚接触者等への学習補完を図るとともに、GIGAスクール構想への対応を推進する。
 - ア 校内に設置した「ICT、GIGAスクール対応推進委員会」を中心に学校休業時や、新型コロナウイルス感染者と濃厚接触者等の学習補完を充実する。
 - イ GIGAスクール構想における1人1台端末の導入に対応し、校内のハード（電子黒板との連携）、ソフト（教員研修）両面でのICT活用推進を図る。
 - 3. ウィズコロナ、ポストコロナの社会を生き抜く、生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望進路の実現
 - (1) コロナ偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。
 - ア コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員、保護者に対して、多様性を認めあい共生するための、人権教育、人権意識醸成の機会を作っていく。
 - ※「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を令和7年度までに90%以上にする（R2 87%、R3 90%、R4 88%）
 - ※「牧野高校の人権教育は、適切に行われている」の教員の肯定的回答を令和7年度までに90%以上にする（R2 81%、R3 90%、R4 84%）。
 - ※「牧野高校は、人権教育や人権問題に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答を令和7年度まで85%以上を維持する（R2 86%、R3 86%、R4 89%）。
 - (2) ウィズコロナ、ポストコロナの社会を生き抜くため、生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割、使命を意識させ、希望の進路実現を図る。
 - ア 非認知能力を育む部活動の活発さを維持しつつ、学校行事、生徒会行事については、ウィズコロナ、ポストコロナの社会で可能なものに見直しをしていく。
 - ※体育祭や文化祭、修学旅行等について、ウィズコロナ、ポストコロナの社会で可能なものになるよう必要な見直しや修正、変更を検討、実施する。
 - ※「部活動は活発である」への生徒の「よくあてはまる」の回答を令和7年度に70%以上にする（R2 63%、R3 66%、R4 68%）。
 - ※「部活動と学習の両立ができている」の生徒の肯定的回答を令和7年度には80%以上をめざす（R2 73%、R3 77%、R4 74%）。
 - イ 生徒に、ウィズコロナ、ポストコロナの社会で、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、わかりやすく意識させる機会を持つ。
 - ※ウィズコロナで可能な、進路講演会やイベントを行うとともに、外部講師による講演等の計画、実施を模索する。
 - ※「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を令和7年度に85%以上にする（R2 80%、R3 85%、R4 78%）。
 - ※「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定的回答を令和7年度までに90%以上にする（R2 89%、R3 90%、R4 88%）。
 - ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。
 - ※学力の3要素、とりわけ思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に取り組む態度を養うために、「総合的な探究の時間」を充実させる。
 - エ 生徒が、入学から卒業まで全ての教科をしっかりと学び、学力をつけて希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。
 - ※進路実現のために、高校3年間で考える力を養い大学入学共通テスト形式にも慣れるとともに、定期的に全国比較での学習の定着度や到達度を図る。
 - ※令和7年度までに、大学入学共通テストの出願者を卒業見込み者の75%以上（R2 70%、R3 74%、R4 63%）にするとともに、そのうち5教科型（情報Ⅰは含まない）の出願者を50%以上（R2 32%、R3 29%、R4 25%）にすることをめざす。
 - ※令和7年度までに、国公立大学の現役受験者を卒業見込者の30%以上（R2 12%、R3 18%、R4 10%）にして、現役合格者を卒業見込者の10%以上（R2 2%、R3 7%、R4 6%）をめざす。
 - ※令和7年度までに国公立大学と同志社大学の合計の現役進学者を卒業者数の15%以上にする（R2 8%、R3 15%、R4 14%）。
 - ※令和7年度まで国公立大学と生徒の人気の高い関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者合計が卒業見込者の50%以上を維持する（R2 60%（211名/353名）、R3 72%（225名/313名）、R4 65%（204/313名））
 - 4. ウィズコロナにおける教職員研修での教職員の資質向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減
 - (1) ウィズコロナにおいて、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分応えられる資質を養成する。
 - ア ウィズコロナにおいて可能な教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。
 - ※「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員の肯定的回答を令和7年度までに90%にする（R2 72%、R3 88%、R4 87%）。
 - ※「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」の生徒の肯定的回答を令和7年度までに85%以上にする（R2 78%、R3 82%、R4 82%）
 - (2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減
 - ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和５年１２月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導】 ・「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は、直近５年で77%⇒78%⇒84%⇒82%⇒85%となり、前年度より３ポイント上昇、直近５年で最高値となった。このうち「よくあてはまる」の回答は16%⇒19%⇒24%⇒25%⇒31%と前年度より6ポイント上昇、こちらも直近５年で最高値となった。令和元・２年度の府教育センターのパッケージ研修の受講、電子黒板の設置や１人１台端末の配付等で、生徒がわかりやすい授業が増えていると考えられる。＜参考＞生徒の授業アンケート結果は、昨年度①3.45、②3.47、今年度①3.45、②3.51と高評価を維持。ＩＣＴ機器を使って視覚に訴える授業が多く、生徒が理解しやすくなっていることがその背景にあると考えられる。 ・「ＩＣＴ機器等を活用した授業を行っている」に肯定的回答をした教員は、直近５年で81%⇒93%⇒92%⇒91%⇒81%、このうち「よくあてはまる」の回答は36%⇒43%⇒62%⇒60%⇒45%と、いずれも前年度より10ポイント以上、下がった。コロナが感染症法上の５類になり、予防対策が緩和され、従来のオーソドックスな授業が一定復活したことが、影響しているのではないかと考える。 ・一方「ＩＣＴ機器やネットワークを活用した授業が多い」への生徒の肯定的回答は直近５年で83%⇒91%⇒91%⇒88%⇒89%となり、高止まりしている。このうち「よくあてはまる」の回答は36%⇒47%⇒53%⇒53%⇒55%となり、前年度より２ポイント上昇した。教員の回答結果との乖離は設問の捉え方の違いではないかと考える。 ・「授業の予習、復習が『できている』、『まずできている』」を合計した生徒の回答は直近５年で49%⇒53%⇒56%⇒52%⇒51%と前年度とほぼ同じ。『できていない』と回答した生徒は９%⇒８%⇒９%⇒９%⇒９%と、こちらも横ばい。引き続き働きかけを行っていく。 ・「授業だけで理解できない場合等の、指導が適切に行われている」への生徒の肯定的回答は、直近５年で61%⇒64%⇒72%⇒68%⇒75%と前年度より７ポイント上昇した。放課後等の丁寧な個別指導がその要因ではないかと考える。 【生徒指導】 ・「牧野高校は楽しい」への生徒の肯定的回答は、86%（１年生85%、２年生85%、３年生87%）で前年度と同じ。「よくあてはまる」の回答は54%（１年生54%、２年生48%、３年生60%）と前年度より１ポイント上昇したが、２年生が低く、進路選択（受験勉強）のプレッシャーが背景にあるのではないかと考える。 ・「体育祭の内容は満足できるものであった」の生徒の肯定的回答は91%（１年生89%、２年生95%、３年生91%）、「文化祭の内容は満足できるものであった」の生徒の肯定的回答は89%（１年生87%、２年生91%、３年生90%）と、全ての学年で高く、学校行事が魅力という本校の社会的評価を裏付ける結果となった。 ・「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答は、直近５年で83%⇒84%⇒87%⇒87%⇒85%であり、このうち「よくあてはまる」は25%⇒32%⇒41%⇒41%⇒42%となっている。 ・一方「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応できている」への教員への肯定的回答は、直近５年で62%⇒77%⇒90%⇒91%⇒75%と今年度16ポイント減少、生徒の回答結果と乖離があるが、年３回の「いじめに関するアンケート」等をもとに、引き続きしっかり取り組んでいく。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」の生徒の肯定的回答は直近５年で76%⇒78%⇒82%⇒82%⇒80%、このうち「よくあてはまる」は27%⇒32%⇒37%⇒36%⇒41%と前年度より５ポイント上昇した。 ・「生徒が悩み事を相談できる教育相談体制が整備されている」への教員の肯定的回答は、直近５年で63%⇒68%⇒90%⇒87%⇒80%となり、昨年度より７ポイント減少した。引き続き注視していく。 【学校運営】 ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は直近５年で78%⇒80%⇒85%⇒78%⇒80%、このうち「よくあてはまる」は27%⇒31%⇒34%⇒27%⇒35%となった。「生徒の10年20年先を見据えた進路指導を行っている」の教員の肯定的回答は、直近５年で45%⇒42%⇒70%⇒58%⇒72%となり、年により差があり、引き続き注力する。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」への生徒の肯定的回答は直近５年で86%⇒89%⇒90%⇒88%⇒88%、このうち「よくあてはまる」は34%⇒41%⇒49%⇒43%⇒47%であった。進路指導部や学年団の教員とともに、学校として多くの機会を持ち、しっかり取り組んでいく。 ・「牧野高校はキャリア教育に積極的に取り組んでいる」への生徒の肯定的回答は直近５年で72%⇒75%⇒82%⇒81%⇒84%、このうち「よくあてはまる」は21%⇒25%⇒33%⇒34%⇒38%であった。引き続き多様な機会の提供に努める。 ・「部活動は活発である」の生徒の肯定的回答は直近５年で94%⇒93%⇒94%⇒92%⇒91%、このうち「よくあてはまる」は60%⇒63%⇒66%⇒68%⇒65%であり、高水準を維持している。 ・「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答は直近５年で69%⇒73%⇒77%⇒74%⇒74%、このうち「よくあてはまる」は22%⇒29%⇒33%⇒33%⇒32%と、ここ３年横ばいである。同じ設問への保護者の肯定的回答は、	【第１回】令和５年７月７日 ○スクールミッション及びスクールポリシーについて説明いただきたい。 ⇒スクールミッションとは、各校の大きな教育理念を表したもので、概ね10年スパンで見直すもの。スクールポリシーは、スクールミッションを実現するための教育活動方針のことで、「グラデュエーションポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」の３つを策定・公表することになっている。これまでから外に向けて示している教育方針をこの３つに整理し、案を策定した。 ○令和４年度学校経営計画及び学校評価について、昨年度第３回の時の資料からアップデートされているところについて教えてほしい。 ⇒昨年度第３回の本協議会で示した資料に、未確定であった大学入試の結果等を新たに記載し、自己評価については色分けするなどの工夫をして記載している。 ○総合的な探究の時間に取り組まれた「枚方市長への提言」の内容について、教えていただきたい。 ⇒昨年度の３年生が総合的な探究の時間において、「信号のない横断歩道における交通ルールの周知徹底」という提案を市長の前で行い、これをもとに枚方市交通対策課が企画をつくり、損害保険会社の逆プロポザール（企業が関心のある社会課題を提示し、それに対して自治体が課題解決のための企画やアイデアを提案する共創サービス）に応募したところ、当該会社に採択され実現したもの。本校生と交通対策課が連携して「信号のない横断歩道で車に一時停止してもらうにはどうしたらいいか」という課題に、仮説を立て、信号のない横断歩道で検証を重ねたところ、歩行者が手をあげると停止率が約４割上昇することがわかった。この実証結果をもとに、交通対策課が、生徒がデザインした信号のない横断歩道では手をあげることを推奨する啓発ポスターを作成され、京阪枚方市駅に掲示された。また、そのポスターがラッピングされた路線バスが、枚方市内を一定期間運行されることになっている。 ○立命館大学への進学が減った理由を教えてください。 ⇒立命館大学の分散されているキャンパスの問題が原因の１つかと考えている。茨木キャンパスに一部の学部が移転したり、琵琶湖キャンパスへのアクセスなど立地的な問題が要因の１つではないかと考えている。 ○観点別評価の評価基準を可視化できるような学校独自の取り組みがあれば教えてください。 ⇒可視化するところまでは進んでいない。昨年度から実施されたが、問題が生じればその都度その都度修正しながら行っているのが現状である。 ○自転車通学について、特にヘルメットの着用や雨の日のマナーについてはどのような指導をしているのか教えてください。 ⇒登校時は怪我、事故を防止するために学年ごとに時差をつけ登校させる工夫を行っている。雨天時のマナーについては、入学時にレインコートを購入し着用することを前提として自転車通学許可書を発行している。ヘルメット着用については努力義務ではあるが、ケガ防止のために推進していく。 ○バスの中でも集中して勉強をしている生徒や、自転車のマナーをきちんと守る生徒が数多く在籍している学校なので、モラルの高い学校を維持し続けていただきたい。 ○大阪弁護士会からの法教育の出張授業については、今年度もぜひ活用していただきたい。 【第２回】令和５年12月15日 ○大学入学共通テストの出願者のうち、５教科型の出願者という目標を定めているが、この指標の意味を教えてください。 ⇒５教科型の出願者というのは、国公立大学をめざしている生徒である。大学入学共通テストは私立大学も参加しているが、私立大学は３教科受験、すなわち文系なら英語・国語・社会、理系なら英語・数学・理科の得点で合否が決まる。一方、国公立大学は５教科を受験科目に指定しているところがほとんどであり、国公立大学志望者数を示すために指標を分けている。 ○５教科に限らず芸術や体育も含めて、高校のカリキュラムを最後まで学び続けることが大事。一般的にはリベラルアーツと言われるが、理系や文系に分かれて何かをするというのではなく、どの学部どの分野に入っても、最終的には全ての経験や知識能力が求められる。５教科型がいいというわけではなく、芸術や体育も含めて満遍なく学習させることが必要。 ○現在、どの企業も内部人材をどのように育成していくかが大きな課題となっている。組織の中で自分の立ち位置を見つけ、伸びる人材は、学校教育の中で様々な活動をしていた人が多い。そうした人は、組織に入っても目的を持って自分を伸ばそうとする傾向がある。大局的に見ると、社会人として成長するには、学校教育の中で幅広い活動をしていることが必要で、そうしたことを意識して生徒への指導をしてほしい。 ⇒リベラルアーツを大事に、理系・文系関係なく様々な勉強を生徒にはさせてほしいと先生方には常にお願ひしている。 ○企業の方を講師に招いて話をしてもらうといった取組みなどは、生徒にとって大いに刺激になるのではないと思う。 ○リベラルアーツをベースに個を伸ばすという個性化教育がうまくマッチングすれば、社会を変えるような、個性豊かなおもしろい生徒、日本ではなかなかそのような人材が生まれてこないのだが、牧野高校からも生まれるのではないかと期待している。生徒への刺激を継続的に続けてほしい。 ○来年度の募集人数はどうなっているのか。 ⇒７クラス２８０名。

直近 5 年で 65%⇒64%⇒69%⇒70%⇒71%、このうち「よくあてはまる」は 22%⇒22%⇒25%⇒25%⇒30%であった。好成績を収めた部活動も多く、生徒や保護者が学習との両立に困難を感じないように、効率的な運営に努める。 ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答は直近 5 年で 84%⇒87%⇒90%⇒88%⇒89%、このうち「よくあてはまる」は 30%⇒37%⇒46%⇒47%⇒51%で、引き続き注力していく。 ・「牧野高校は人権教育や人権問題に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答は、直近 5 年で 87%⇒86%⇒86%⇒89%⇒88%、このうち「よくあてはまる」は 24%⇒23%⇒25%⇒24%⇒25%で、ほぼ横ばいである。 ・「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答は、直近 5 年で 77%⇒81%⇒90%⇒84%⇒80%、このうち「よくあてはまる」は 17%⇒23%⇒34%⇒42%⇒32%で、いずれも前年度より減少した。 ・「教職員間の十分な相互理解に基づいて教育活動が行われている」への教員の肯定的回答は直近 5 年で 46%⇒65%⇒78%⇒73%⇒71%と前年度より 2 ポイント減少であったが、このうち「よくあてはまる」は 9 %⇒13%⇒20%⇒22%⇒14%で、前年度より 8 ポイント減少した。 ・「教育活動全般について生徒や保護者の期待によく応えている」への教員の肯定的回答は直近 5 年で 72%⇒77%⇒92%⇒89%⇒77%、このうち「よくあてはまる」は 12%⇒19%⇒32%⇒33%⇒25%といずれも前年度より減少した。 ・「牧野高校ではカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」への教員の肯定的回答は導入以来 6 年たち 69%⇒67%⇒74%⇒88%⇒87%⇒80%、このうち「よくあてはまる」は 16%⇒16%⇒35%⇒38%⇒44%⇒30%と年によって差があるものの一定定着してきている。	○全体的に生徒数が減っているということか。 ⇒その通り。 ○最近ではタブレットで評価をするとか、様々なことが求められていて、かえって勤務時間が増えたり、または、その逆でデジタルトランスメーションにより意外と超過勤務が減っているとか、何か具体的に変わったことはあるか。 ⇒今年度からデジタル採点を導入して、勤務時間の削減につながっているが、多く印刷するのでランニングコストがすごくかかることが今後の課題である。ペーパーレス会議を各種会議で導入したことで、資料の印刷や配付がなくなり会議時間の短縮につながっている。 ○クラブ活動はコロナ前と同じように行っているのか。 ⇒クラブ活動をはじめ P T A 活動もコロナ前と同じような活動に戻りつつある。 ⇒今年は文化祭で、コロナで休止していた本校近くにある障がい福祉サービス事業所の利用者さんによるパンの販売を地域連携の一環として復活した。 ○利用者さんも喜んでいた。スタッフに牧野高校の卒業生がおり、そのスタッフも喜んでいた。 ○ P T A も子どもたちに喜んでもらえるようイルミネーションのモニュメントを新たに設置した。 ○学校説明会で生徒に司会や説明等をさせるのは、様々な面で才能を生かすことになるのでよい取組みだと思う。 ⇒校内の案内も自分たちの言葉で説明しているので、非常にいい雰囲気でいい評価をいただいている。他校で同じようにしている学校は少ないのではないかと思う。 ○学校説明会に参加する中学生は、京阪沿線から広範囲に集まってくるのか。 ⇒枚方市内が一番多く、寝屋川市や交野市からも一定数ある。門真市や守口市からは少ないが、中には大阪市内からの参加者もいる。 ○学級閉鎖等があったようだが、どのような対策を行ったのか。 ⇒本校は学習支援クラウドサービスを導入しているので、具体的な閲覧の指示をし、学習保障を行った。 【第 3 回】令和 6 年 2 月 20 日 ○「生徒の 10 年 20 年先を見据えた進路指導を行っている」の肯定的回答が年度によってかなりばらつきがあるが、これだけ変動するのは何か要因があるのか。 ⇒ばらつきの原因はよくわからないが、回答する生徒が毎年かわることも影響していると思う。今年度については、外部講師により、「自分の将来の夢から逆算して勉強を考えていく」という内容の講演をしていただいたことが、この数値になったのではないか。よって進路講演は「目先の大学のことでだけでなく、将来的なことも含めて深く考える」といった内容の方が生徒に響くと思う。 ○キャリア教育は、国は小中も含めた位置付けを推進しているが、高校の場合は大学進学で止まってしまう傾向がある。生涯現役社会になっているので、何十年か先を見越した人生という観点から何か仕掛けが必要になってくると考える。中学校のキャリア教育の視点は、中長期的な 10 年 20 年といったものか。 ○高校のキャリア教育の方が、生徒は将来のイメージがしやすいと思う。中学生は、保護者も含め、高校に入学することに意識があり、コロナが明けて職業体験も復活したが、現実として仕事をするというイメージは捉えにくい。ただ、小学生からキャリアパスポートに取り組んでいるので、職業について考える機会は増えており、これが、高校入学後のキャリア教育につながっていることは、理解している。 ○キャリアパスポートにより、小中学生の時に、どのようなキャリアを考えていたかをタブレットを用い、ポートフォリオ的に積み上げていくことを中学校でしているが、高校には引き継がれない。そこで分断され、ICT を活用する意義が見えてこないところがある。国もそのことを意識して、義務教育から高校大学まで引き継ぐことで学習成果や学びのプロセスなどを可視化していくことを考えている。そうなれば色々なものが見えてくるのではないかと期待している。 ○同窓会はあるのか。また活発に活動しているのか。 ⇒総会は年 1 回学校で開催している。また今年度、同窓会主催の音楽コンサートを復活することになっている。 ○同窓会を活用して、様々な分野の経験豊富な先輩の講演会などを企画してみてはどうか。また日々の同窓会と先生方との交流はどのような感じか。 ⇒現状は、同窓会と学校との交流は活発ではないが、令和 7 年度の創立 50 周年記念事業では、卒業生に講演をしていただく計画を立てている。 ○牧野高校の卒業生で 40 歳代の方の野球関係の記事が掲載されている 2 月 5 日の新聞を持参してきた。色々活躍されているんだなと思った。 ⇒学校でも確認したので、記事のコピーを職員室内に掲示し先生方に周知した。 ○創立 50 周年を機に同窓会とのネットワークの整理・構築を提案したい。 ○国公立大学の志願者を増やし、関西難関私立 4 大学の比率を増やしていくことは以前から聞いているが、具体的にはどのような取り組みをしているのか。 ⇒外部講師（特に予備校等関係者）による進路講演会をよく行っており、志望校合格にむけた講演を行っている。先生方には夏季・冬季休業期間中に講習をしっかりやってほしいとお願いし、多くの先生方が開講してくれている。 ○国公立・難関私立 4 大学への入学に向けた動機づけを行っているということか。 ⇒その通り ○府のガイドラインにもあるアンケートの「ICT 機器を活用していますか」という項目については、これから何%活用したかということではなく、ICT を活用してどのような教育がされ、どういった力がついているのかを明確にしていけないといけないと思う。国も府も意識を変えていけないといけない。「80%から 90%になった。みんなよく使ってますよ」ではなく、その数値結果が何を表しているのかということまで、牧野高校独自の尺度で測定できるようなものがあればいい
---	---

	いのではないか。 ○説明の中で「高止まり」や「評価は主観的なもの」という言葉があったが、「第一評価」が高くなることをめざして取り組みを進めることが大事である。教員と生徒との間に少し乖離があったりするところも教員側の「教員はこうあるべきだ」という基準の高さの表れではないか。そのあたりを分析されると何か見えてくるかもしれない。 ○今年度、大学入学共通テストを利用する私立大学が増えている。5教科型、3教科型に加え、2教科型という例えば国語と英語の点数のみで合否を決める型があるが、5教科型で最後までしっかり勉強した生徒が、大学入学してからの伸びしろが一番高いように思う。海外の大学に学部留学できるような学生を育てたりもしているが、例えば TOEIC や TOEFL、IELTS といったグローバルスタンダードのスコアがある程度までは伸びるが、そこから伸び切らないことがある。その原因は、英語の力ではなく、TOEIC や TOEFL 、IELTS で使用されているコンテンツ（歴史、社会、数学、理科等）の知識がないため、英文法の知識や speaking、listening のスキルがあっても伸びない。その意味では、高校3年の1月、2月まで学び続ける生徒を育成することは非常に大事である。5教科型の志望者が増えているのは、そういうこともあるのではないかと思う。 ○学校教育自己診断で、予習・復習をしているかの設問で第一評価を選んでいる生徒が、学年が上がるにつれ高くはなっているが、1年で9%、3年生でも15%と低く、進学実績と合わないと感じる、この点も課題かと思う。また、国が新課程になりよく言っている「学習の個別最適化」については、ICT 活用というアダプティブな面も含め、教員が意識して取り組んでいるかという指標も必要かもしれない。 ○授業アンケートで、教科別平均が令和3年度は各教科で分散していたが、令和4年度から収束し、分散が小さくなり、数値も高くなっていることは良い傾向ではないかと思う。 ○令和3年度以前は、年齢別で50代60代の評価が低かった。その理由はICT機器の使用がまだ少なかったという説明であったように記憶しているが、教科別では「情報」が高かったが、中央値まで評価が落ちてしまったことは、平均化されてしまったのか、または他教科が比較的上がってきたからなのか説明がほしい。 ⇒「情報」は教員が一人しかいない。授業は、いろいろ工夫して進めておられるので、そのような評価になった理由はよくわからない。授業を見学したが、実技課題を中心に生徒は熱心に取り組んでおり、特に問題はなかった。 ○今年度、月100時間以上の超過勤務の3人の教員は、産業医の面接やアドバイスを受けているのか。 ⇒受けている。産業医からは特別な助言はなかったが、クラブの公式戦等で勝ち進んだこともあり、土日勤務が多くなったことが原因であると考えている。 ○私学授業料無償化が始まった。公立が私学に施設面で勝つことは難しいが、教育内容で勝負したい。そのことを中学生と保護者にどうアピールしていくかが重要になる。普通科の高校は少なくなってきたが、その特色を残し、新しい形で教育活動を展開されている牧野高校をどのように外部へアピールしていくのが大きな課題となっている。「高止まり」になっている評価を、さらに高めていく仕掛けが今後必要になってくるという印象を受けた。 ○私立高校への専願が増えている。専門的にスポーツをしたい子どもで、これまで私学に行けなかった子が、無償化になり、私学に行けるようになった。公立高校の体育科も人が集まらなくなってきた。公立高校の定員数を見直す必要があると思っている。公立の定員数を満たすだけの公立志願者がいなくなっている状況である。牧野高校は学力もしっかりつけられ、何よりも学校が楽しいと思う生徒が90%超というのは信じられない数字であり、先生方の努力の表れだと思っている。 ○約20年、間近で生徒を見てきたが、時代とともに雰囲気が変わってきたように思う。優しい生徒が増えているように感じる。挨拶をしてくれるし、礼儀正しい生徒が多いと思う。ここ10年ぐらいは落ち着いた雰囲気があるので、皆が来たい学校なんだな、と傍からみても感じる。一つ気になっていることがあり、私の職場もそうだが、本を読めない、読まない人が増えている。何でもすぐに答えが出てくる時代を生きている人たちと一緒にいて、少ししんどく感じることもある。本当に困った時、自分で考えて答えを出せるのかなと思う。学校はすごく大切なところだと思うので、そうしたことも、どのように子どもたちに伝えていくのかということも気になっている。 ○最新の大阪府チャレンジテストのアンケート項目の中に、1週間だったか平均読書時間を調べた結果があったが、0分が47%だったという記憶がある。読むという習慣ではなく、スマホの画面を開くということになっている。 ○学校が楽しいということは一番だと思う。その楽しい経験が社会に出る時の土台になる。楽しい学校をこれからも引き続き維持してほしい。また、私も読書時間が本当に少ないと感じている。牧野高校の図書館の利用はどうなっているのか。 ⇒利用率はそう高くないと思うが、自習室として利用する生徒は一定数いるかと思う。進路関係の資料は、全て進路指導室で保管・利用している。 ○今はネットで何でも情報を選べ、答えを出してしまう。自分で考えることが我々も含めて減ってきていると思う。牧野高校は、コミュニケーションの高い生徒が多くいるので、自分の考えを発表するプレゼンテーション等の機会を増やしてほしい。学校が好きで、勉強・行事・クラブを頑張ろうと思っている子が集まって楽しい学校を作っていると思っている。普通科の特色を生かしながら、今後もそのことを大事に学校の維持、発展をしてほしい。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 4 年度値〕	自己評価
1. ウィズコロナにおける「確かな学力」の育成と授業改善	（１）「確かな学力」の育成と授業改善 ア 『授業力改善委員会』による持続的な授業改善の推進 イ ＩＣＴを活用した授業推進 ウ 生徒への授業の予習、復習の習慣づけ指導 エ 生徒の進路希望が叶う新カリキュラムの定着	（１）ウィズコロナにおける新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等の先行きを見据えて、「確かな学力」の育成とのための授業改善を進める。 ア 『授業力改善委員会』で持続的な授業改善を推進する。また先生方による授業観察期間を設け、授業改善に資するようにする。 イ 『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ＩＣＴ機器やネットワーク環境を一層充実させ、ＩＣＴと１人１台端末を活用した授業等の実施機会を拡大、推進する。 ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけと幅広く多くの教科を学習することの大切さを様々な機会を通して指導する。 エ 新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムと観点別学習評価を１・２年生で安定して実施できるようにする。	ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を 83％以上にする【82％】。 ・生徒の授業アンケート結果で 3.35 以上を維持する【①3.45、②3.47】。 イ・ＩＣＴと１人１台端末を活用する授業を行う教員が 90％以上を維持する【91％】。 ウ・生徒の「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』を 55％以上【52％】、『できていない』を 8％以下にする【9％】。 エ・観点別学習評価を１・２年生で完全実施する。	（１）ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定的回答は 85％になった。直近 5 年では 77％⇒78％⇒84％⇒82％⇒85％とほぼ横ばい、このうち「よくあてはまる」が 16％⇒19％⇒24％⇒25％⇒31％と毎年上昇している。（○） ・生徒の授業アンケート結果は、１回めが 3.45、２回めが 3.51 であった。（◎） イ・「ＩＣＴ機器等を活用した授業を行っている」の教員の肯定的回答は 81％であった。（△） ウ・生徒の「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』は 51％であった。（△）『できていない』は 9％であった。（△） エ・観点別学習評価は１・２年生で完全実施した。（○）
2. と G I G A 活用授業の推進 想 対 応	（１）コロナ感染者等の学習補完と G I G A スクール推進 ア コロナ感染者等学習補完 イ G I G A スクール構想推進	（１）ＩＣＴ機器の活用で学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を図るとともに、G I G A スクール構想への対応を推進する。 ア ＩＣＴ機能を活用して学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を充実する。 イ １人１台端末の導入に対応し、校内のハード（電子黒板との連携）、ソフト（教員研修）両面でのＩＣＴ活用推進を図る。	（１）ア・ＩＣＴ機器やネットワークを活用した授業が多いと実感する生徒が 90％以上にする【88％】 ・「牧野高校は１人１台端末を効果的に活用している」の生徒の肯定的回答を 63％以上にする【63％】。	（１）ア・「ＩＣＴ機器やネットワークを活用した授業が多い」の生徒の肯定的回答は 89％であった。（○） ・「牧野高校は１人１台端末を効果的に活用している」の生徒の肯定的回答は 73％であった。（◎）前者は数値目標にわずかに届かなかったが、後者が大きく上昇したことを踏まえ、総合的に判断し、前者を○とした。
3. ウィズコロナ、ポストコロナの社会を生き抜く、生徒の豊かなでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現	（１）多様性、共生の意識醸成 ア コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員の人権意識醸成の機会を作っていく。 （２）生徒の高校生活の充実と希望進路の実現 ア 部活の活発さを維持しつつコロナ下での行事等の見直し イ 進路について生徒に意識させ、考えさせる機会の充実。 ウ 「総合的な探究の時間」の充実、学力の３要素の養成	（１）コロナ偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。 ア コロナ偏見を許さず、多様性を認め合い共生するための人権教育、人権意識醸成の機会を生徒は各学年で年間２回以上、教職員も年間２回以上行うようにする。 （２）ウィズコロナ、ポストコロナの社会を生き抜くために、生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割・使命を意識させ、希望の進路実現を図る。 ア 非認知能力を育む部活動の活発さを持続しつつ、学校行事、生徒会行事については、ウィズコロナ、ポストコロナの社会で可能なものに見直しをしつつコロナ前の状態に戻していく。 イ ウィズコロナ、ポストコロナの社会で、大学進学等のその先 20 年後を見越したキャリア形成や進路について、わかりやすく意識させる機会を持つ。 ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の３要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。	（１）ア・「命の大切さ社会のルールについて、学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を 90％以上にする【88％】。 ・「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答 85％以上にする【84％】。 ・人権教育を生徒は各学年で年２回、教職員も年２回行う【１年３回、２年２回、３年３回、教職員２回】。 （２）ア・ウィズコロナにおける体育祭、文化祭は府の方針に基づき実施する。 ・「部活動は活発である」の生徒の「よくあてはまる」の回答を 68％以上とする【68％】。 ・「部活動と学習の両立ができてい」への生徒の肯定的回答を 75％以上にする【74％】。 イ・進路に関する講演会等を各学年で年２回以上実施する【１年４回、２年３回、３年２回】。 ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定的回答を 80％以上にする【78％】 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定的回答を 90％以上にする【88％】 ウ「総合的な探究の時間」を多様な形で充実させる。	（１）ア・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答は 89％であった。（△） ・「牧野高校の人権教育は適切に行われている」の教員の肯定的回答は 80％であった。（△） ・１年生は性的マイノリティ、障がい者理解、アニメ「めぐみ」鑑賞の３回、２年生は性的マイノリティ、障がい者理解の２回、３年生は性的マイノリティと面接時における人権、18 歳成年の３回の学習を行った。教職員はヤングケアラーと同和問題に係る研修を行った。（○） （２）ア・体育祭・文化祭は来場者の人数制限を設けず実施。両方とも 800 人超の来場者があった。「体育祭の内容は満足できるものであった」「文化祭の内容は満足できるものであった」の生徒の肯定的回答はそれぞれ 91％、89％（１年生 89％、87％ ２年生 95％、91％ ３年生 91％、90％）だった。（◎） ・「部活動は活発である」の生徒の「よくあてはまる」の回答は 65％であった。（△） ・「部活動と学習の両立ができてい」への生徒の肯定的回答は 74％であった（△）。 イ・外部講師による進路講演会は１年生は３回、２年生は７回、３年生は３回実施した。（◎） ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の生徒の肯定的回答は 80％であった。（○） ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定的回答は 88％であった。（○）これについては、数値目標に少し届かなかったが、進路講演会等は目標値を上回っており、総合的に判断し、○とした。 ウ・「総合的な探究の時間」は、各学年でテーマを決め、そのテーマに沿って調査研究・発表を行った。（○） エ・全国比較できる外部模試を校内で実施、結果分析説明会も行い、生徒の学習到達度を図れるようにした。（○） ・大学入学共通テストの出願者は卒業見込者の 68％で、（○）このうち５教科型の出願者は 31％であった。（○）前者は目標値より２ポイント低いが、本校の目標である国公立大学進学者の増加に関連す

府立牧野高等学校

	エ 入学から卒業まで全教科を学び学力をつけて、生徒の希望を進路実現させるための進路指導体制の充実	エ 入学から卒業までの全ての教科をしっかり学び、学力をつけて、進路指導部を中心に生徒の希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。	エ・定期的に全国比較での模試を行い学習の定着度や到達度を計測して向上させる。 ・大学入学共通テストの出願者を卒業見込者の 70%以上【63%】、内5教科型の出願者を 30 % 以上【25%】にする。 ・国公立大学の現役受験者を卒業見込者の 20%以上【10%】、内現役合格者を卒業見込者の 5 % 以上【6 %】とする。 ・国公立大学と同志社大学の現役進学者を卒業者の15%以上【14%】にする。 ・国公立大学と関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者を卒業者の 50%以上【66%】にする。	る5教科型の出願者が、目標値をこえ、とりわけ前年度より6ポイント上昇したことから、前者も総合的に判断して、○とした。 ・国公立大学の現役受験者は卒業見込者の26%、現役合格者は12%となった。(◎) ・国公立大学と同志社大学の現役進学者は卒業者の15%であった。(○) ・国公立大学と関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者は卒業者の67%であった。(◎)
4. ウィズコロナにおける教職員研修での教職員の資質向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減	(1) 教職員の資質向上 ア 相談能力養成のための教職員研修の充実 (2) 「働き方改革」の推進による教職員長時間勤務の縮減 ア「働き方改革」や健康管理の観点から、教職員の長時間勤務を縮減する。	(1) ウィズコロナにおいて、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分に応えられる資質を養成する。 ア ウィズコロナで可能な教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。 (2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の削減 ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 ・職員会議のデータベース化、ペーパーレス化を他の会議にも応用し、会議時間縮減や、部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、ICT活用による教材の共有化・効率化等で超過勤務削減を進める。 ・校内行事を見直し、縮小、廃止等も検討する。 ・新たな実効性ある働き方改革の施策を検討、実施することで、長時間勤務縮減を図る。	(1) 教職員研修の充実 ア・「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員の肯定的回答88%以上をめざす【87%】。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」への生徒の肯定的回答83%以上をめざす【82%】。 (2) 教職員の長時間勤務縮減 ア・会議のデータベース化、ペーパーレス化徹底で会議時間を縮減するとともに、部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、また校内行事を見直して、「働き方改革」を具体的に進め、教職員一人あたりの超過勤務時間数で前年度より5%削減をめざす【R4：31時間28分】	(1) ア・「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員の肯定的回答は80%であった。(△) ・「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」への生徒の肯定的回答は80%であった。(○)これについては数値目標に少し届かなかったが、いじめ対応に係る学校の対応について生徒のアンケート結果が高水準で推移している状況を鑑み、総合的に判断し、○とした。 生徒への「いじめに関するアンケート」の年度内3回の実施と、アンケート結果に対する丁寧な対応で「いじめに困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答は、5年間で83%⇒84%⇒87%⇒87%⇒85%と高水準で推移している。 (2) ア・運営委員会、職員会議のペーパーレス化による会議時間短縮や電子黒板利用による教材の共有化・効率化が進んだ。コロナが感染症法上の5類となり、コロナ前の通常の教育活動にほぼ戻ったこともあり、教職員への声掛け、部活動指導員の活用等に取り組んだが、教職員一人あたりの超過勤務時間は前年度比0.16%増加した。(△)